

科目名	臨床精神病理学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)			ナンバリング	858146	授業形態	講義
対象学年	1・2	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	菅野 智行	担当教員					

授業の概要	心理臨床家として必要な精神医学の基礎知識を身につけることを目的とし、精神医学の歴史、各種精神疾患の要因・精神症状・診断・治療法について講義する。						
到達目標	精神医学の知識に基づき、健康な心理状態から病的な心理状態までの過程を把握し、健康な心理状態を維持するための方法を説明できるようにする。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)							
ディプロマポリシーとの 関連	【人文学研究科 臨床心理専攻(修士課程)のディプロマポリシー】						
	○	1. 人間におけるさまざまな物事や問題を、臨床心理学の方法論を用いて探求し研究できる。					
	○	2. 臨床心理学の知識を深めるとともに、心理学全般にわたる幅広い教養を持ち、臨床的な枠組みを用いて、実践的に研究することができる。					
		3. 心理臨床の場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じたふさわしい自己表現ができる。					
		4. 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動できる。					
		5. 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
精神医学の知識に基づき、健康な心理状態から病的な心理状態までの過程を把握し、健康な心理状態を維持するための方法を理解する。	精神医学の知識に基づき、健康な心理状態から病的な心理状態までの過程を把握し、健康な心理状態を維持するための方法を説明できるようにする。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○			○		50%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		50%

課題、評価のフィードバック	解答用紙は、要請があればいつでも開示できるよう準備しておく。
---------------	--------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	精神医学総説・面接法	精神医療の歴史と心理現象の生物学的基礎を把握した上で、面接の目的その方法や意義について説明できる。	
	第2回	神経症、ストレス関連障害、心身症	心因性精神疾患として、心理的ストレスや不安によるものとその結果生じる身体症状について説明できる。	
	第3回	統合失調症	内因性精神疾患として、最も代表的な統合失調症について、想定される原因から治療法まで包括的に説明できる。	
	第4回	気分障害	最も頻度の高い精神疾患の一つであり自殺との因果関係も強いうつ病を中心として、気分の変動に関連する疾患について、原因から治療までを包括的に説明できる。	
	第5回	器質性精神障害・症状精神病・物質関連障害	外因性精神疾患として、身体疾患に伴う精神症状のほか、薬物やアルコールなどの物質使用に伴うものなど、総合病院のリエゾン精神医療で頻繁に扱われる疾患群についてその対応法を説明できる。	
	第6回	老年期精神障害	老年期特有の環境・心理・疾病の特徴・経過などを理解し、認知症など超高齢社会に対応した精神医療について説明できる。	
	第7回	児童青年期精神障害・精神遅滞	若年者に特有な精神疾患の特徴について、発達・行動・社会機能の障害の面から説明できる。	
	第8回	パーソナリティ障害・その他の障害	近年注目されているパーソナリティ障害を代表とする非器質性非内因性精神障害について発症のメカニズムと対処法を説明できる。	
	第9回	薬物療法と身体的治療法	生物学的治療手段である薬物療法や身体的治療法の目的や方法を把握し、その意義を説明できる。	
	第10回	精神療法(心理療法)・精神科リハビリテーションほか	精神医学における非薬物療法の代表である精神療法やリハビリテーションの位置づけとその意義について説明できる。	
	第11回	法と精神医学・病跡学	精神保健福祉法など精神医学に関連する法律の存在する意味、責任能力などの判定について説明できる。	
	第12回	症例検討(1):心因性精神疾患	不安障害・心気症・強迫性障害・パーソナリティ障害など心因性と言われる疾患から症例を選び検討することで、対応のしかたについて説明できる。	
	第13回	症例検討(2):内因性精神疾患	統合失調症・双極性感情障害など内因性と言われる疾患から症例を選び検討することで、対応のしかたについて説明できる。	
	第14回	症例検討(3):外因性精神疾患	症状性精神病・認知症・アルコール依存など外因性と言われる疾患から症例を選び検討することで、対応のしかたについて説明できる。	
	第15回	講義総括	1回から14回までの講義を総括し、精神症状や行動を見ながら精神内面を把握する方法について説明できる。	
	試験	試験は行わない。		
授業の進め方		講義を中心に行う。		
授業外学習の指示		受講前には項目に合わせた目次を確かめて熟読しておき、不明な箇所をまとめておくこと。(90分／回 程度) (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	はじめての精神医学 渡辺雅幸著 中山書店 2,940円 ISBN978-4-521-67971-6 適時、資料を配布する予定
参考書	看護のための精神医学(第2版)中井久夫、山口直彦著 医学書院 2,940円 ISBN978-4-260-33325-2
参考URLなど	
その他	授業参加態度(積極的発言など)と考査評価を半分ずつとし、不足分はレポートを提出させて評価に加える。